

AMDA 世界で信頼30年

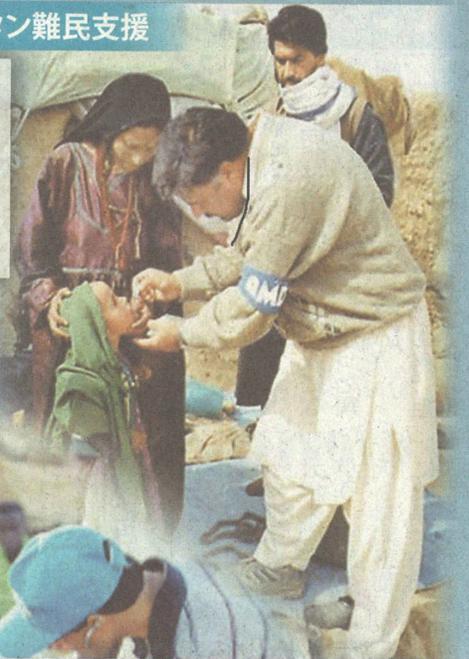


災害・紛争 医師ら派遣

世界の災害地や紛争地に医療者を派遣するNGO「AMDA(アムダ)」(岡山市)が8月1日、設立30年を迎えた。岡山市の医師、菅波茂さん(67)が「相互扶助」を理念に、世界中に医師仲間ネットワークを広げてきた。これまでに実施したプログラムは世界65カ国・160件超。医療支援にとどまらず、平和構築を目指した紛争地でのスポーツ交流など活動は多岐にわたる。AMDAの今とこれからの伝える。【五十嵐朋子】

1 01年 アフガニスタン難民支援

2001年、米ニューヨーク同時多発テロ後の米軍のアフガニスタン攻撃によって、アフガニスタンから難民が流出。AMDAは「反テロ、人道支援」を掲げ、アフガニスタン南部の都市カンダハルなどで支援にあたった。



1 ミャンマー生計向上事業

※写真はAMDA社会開発機構提供



1 08年 四川大地震

2008年5月、中国・四川省でマグニチュード7.8の地震が発生。死者・行方不明者は9万人に上った。AMDAは発生2日後に現地入り。中国の医師免許を持つ台湾支部の医師らの活躍で、迅速な支援を実現した。



② 93年ソマリア難民支援

紛争地の対立するグループ間で平等な医療を実施することで和平への足がかりとする「医療和平」や、復興支援など。1998年には、緊急救援でつながりのあったアフガニスタンのタリバン政権、北部同盟の両者を岡山に招き、子どもたちへのワクチン接種のための停戦を呼びかけた。子ども同士の交流も重視。2003年から医療和平を実施したスリランカでは、11年、敵対する地域に育った子どもたちを招き「サッカー交流」を開始。スポーツを通して互いを理解する場を作っている。

紛争地・難民支援

1993年、内戦でソマリアから隣国ジブチに流出した難民への支援を開始。アフリカでの初めての本格的な事業となった。同年結成した「多国籍医師団」を生かし、ジブチにもネパールなど各国から医師が向かった。

AMDA社会開発機構が支援するミャンマー中部・メティラ郡では、貧困世帯の女性を対象に小規模融資を実施。農業や畜産で収益を上げる手助けをしている。

長期の事業
AMDA社会開発機構

AMDA社会開発機構(岡山市北区)は07年、AMDAから独立した認定NPO法人。ミャンマー、ネパールなど6カ国で長期にわたる事業を担う。妊産婦や乳幼児の死亡率が高い地域では、女性を対象に保健の知識を広める活動を展開。貧困世帯の多い地域では、小規模無担保融資(マイクロクレジット)を活用し、農業や商売の収入を安定させるための支援をしている。事業は外務省から資金協力を受け、政府開発援助(O DA)の一環として行っている。

② 13年 フィリピン台風30号

地震や台風などの被害を受けた人たちのもとへ駆けつけ、巡回診療や物資の配布をする。災害の発生から72時間以内に職員を派遣。現地の協力団体と合流し、必要な支援を見極めることから始める。支援にあたるのはAMDA職員のほか、ボランティアとして参加する日本全国の有志の医師や看護師、AMDA海外支部の医師たち。海外支部は世界30カ国にあり、それぞれの国の医師でつくる。普段は病院などに勤務し、緊急時に協力してくれる。

災害時の緊急救援

昨年11月、台風30号がフィリピン南部の島々を直撃。AMDAは同国のNGOや医師会、軍の協力を得てレイテ島、サマル島などで医療支援を展開した。12月には子どもたちにクリスマスプレゼントを贈る取り組みも。

AMDAのあゆみ

- 1980年 ● 菅波さんら日本の医師と医学生が、アジアの医学生と交流する国際会議を始める
- 84年 ● AMDA(アジア医師連絡協議会)設立
- 88年 ● 最初の医療プロジェクトをインド・カルナタカ州の無医地区で実施
- 91年 ● AMDA国際医療情報センターを東京に設立。日本に住む外国人に医療情報を提供する
- 93年 ● アジア多国籍医師団を結成
- 2000年 ● 国や宗教を超えて戦没者を慰霊する「魂と医療のプログラム」開始
- 07年 ● AMDA社会開発機構が独立。AMDAが国連経済社会理事会から総合協議資格の認証を得る
- 13年 ● アジア13カ国・地域のNGOなどと「アジア相互扶助災害医療ネットワーク」発足。AMDAが岡山市から認定NPOの資格を得る
- 14年 ● クアラルンプールに拠点を開く

2010年のハイチ地震で、建物が倒壊した現地の様子=AMDA提供

グラフィック 梶川貴宏、編集・レイアウト 山田夢留



3月にマニラであった国際会議でスピーチする菅波さん—五十嵐朋子撮影

創立者・菅波茂さん

30年の歳月をかけ、世界中の医師たちと協力関係を築きながら医療支援を続けてきたAMDA。「困ったときはお互いさま」の考えのもと、AMDAを率いてきた創立者の菅波茂さんは「これからは、世界平和のためのメッセージを打ち出したい」と語る。

平和の追求 前面に

菅波さんが構想するのは、こういった活動を、世界のNGOなどと連携して続けること。「日本のAMDAではなく、世界のネットワーク」が前面に出ること、より強く「世界平和」のメッセージを打ち出せる。既にAMDAは昨年、緊急救援分野でアジア13の国・地域の団体と「アジア相互扶助災害医療ネットワーク」を結成。災害時に協力し合うことを確認している。今後は、平和構築や人材育成分野でも協力体制を作りたいという。

名付けて「世界平和パートナーシップ(Global Partnership for Sustainable Peace)」構想。菅波さんは「AMDAの理念である『相互扶助』を世界に広めたい」と話す。

菅波さんの平和への願いは高校生時代にさかのぼる。偶然開いた太平洋戦争の写真集。終戦の翌1946年に生まれた菅波さんは、南方の戦線で戦死した一人の日本兵の写真に衝撃を受けた。「なぜ死ななければならなかったのか」という疑問を抱き続け、医師として平和を追求してきた。

菅波さんの構想は、すでに実現に向け動き出している。今年7月、AMDAはマレーシア・クアラルンプールに新しい拠点を開いた。菅波さんをはじめとする日本人スタッフが常駐する初めての海外事務所で、ここを拠点に、よりアジアの諸団体と関係を深めたいと願う。「日本からアジアを見るのではなく、アジアからアジアを見る」。菅波さんの挑戦は続く。